

し ん や ま の 森

【 森の紹介 】

会の名称： 里やまV(ファイヴ)・千駄堀

2008年4月、第5回里やまボランティア入門講座受講生により結成され、しんやまの森にて活動を開始した。

会員数： 男女合計 19名

活動日： 毎月第2と第4火曜日の午前10時～正午

活動場所： 新京成八柱駅北口から徒歩10分。ぶどう園「相田園」の南側に位置し、平地部分と南西向きの斜面林で構成されている。高木のコナラを主とした落葉樹林。大きなヤマザクラがシンボルツリー。周囲は森と畑に囲まれて本来の里山の雰囲気漂い、市の中心部とは思えない別天地。近隣町会とも連携して活動し、近くの幼稚園児達が自然観察の場として定期的に訪れて森の体験をしています。

連絡先 Tel： 080-1083-8141 (大石愛祐)

【森の四季】



【森の活動】



【森の体験】



【森の自然】



ヒキガエル



ウグイスカグラ



ミスジマイマイ



樹木の表情



ヤブコウジ



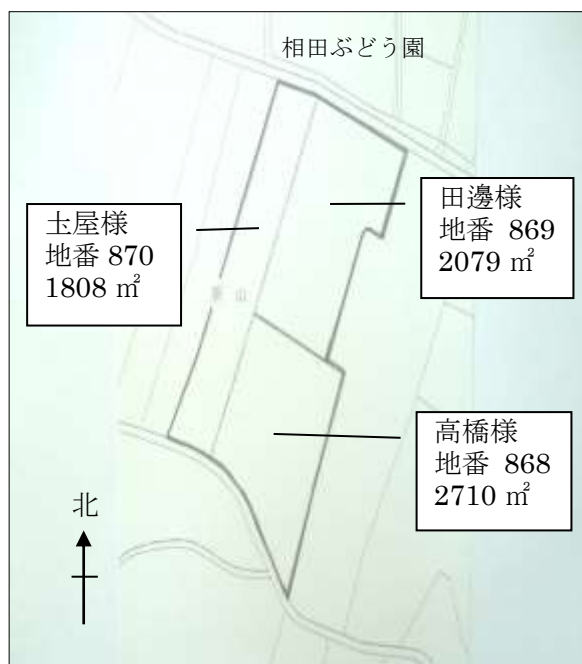
タチツボスミレ

園児達の森の探検と自然学習

松戸里やま応援団
ファイブ
「里やまV・千駄堀」の活動
* しんやまの森 *

I 【グループの紹介】

- 1 会の名称： 里やま^{ファイブ}・千駄堀
代表者 大石愛祐
- 2 設立時期： 平成 20 年 (2008) 4 月
- 3 活動場所： しんやまの森
松戸市千駄堀 868 (高橋様) 約 2,700 m² } H20 年(2008) 4 月 整備活動開始
同 869 (田邊様) 約 2,100 m² }
同 870 (土屋様) 約 1,800 m² } H23 年(2011) 7 月活動フィールド拡張
合計：約 6,600 m²



- 4 会員数： 設立時 19名（男性10名、女性9名）
H19年(2007) 里やまボランティア入門講座受講者により活動開始
現在 20名（男性14名、女性6名）： 会員の入退会の結果、現在の会員構成は講座受講者12名、新山町内会員5名、新規加入3名
- 5 助成金受給実績
みどりと花の基金：H20(2008), H25(2013)～H30(2018)
花王株式会社・都市緑化機構：H21(2009)～H23(2011)

活動開始にあたり決めた連絡網や役割分担に加え、助成金申請に会則や運営体制及び活動計画書などの提出が必要となり、活動初年度後半にかけて基本的な活動方針をまとめ運営体制も明文化した。これにより当グループの活動体制が整いました。

また、助成金により作業に必要な機器や備品を購入できたことで、樹林地の整備・保全活動の安全性や作業効率が大きく向上しました。

II 【活動の方針】

当グループの活動内容を規定する会則はH20年(2008)4月に制定し、改訂しながら現在に至っています。一方、活動の方針も同年9月の「しんやまの森・基本計画(案)」に基づき検討を続けました。その経緯を踏まえてH23年(2011)4月に活動の方針としての活動理念と方針を包含する「しんやまの森・活動哲学」を決定しました。各自の時間のある時に参加し、各自のできることをすることで、快適で多様な環境をもたらし、様々な人々との交流の場をつくりだすことをめざして活動しています。

「しんやまの森・活動哲学」

1. 基本理念

しんやまの森の整備・保全活動を通して以下のことをめざす

- ・人や生き物にとって快適で多様な環境をもたらすこと
- ・地域の環境や歴史・文化を尊重した安全な癒しの空間となること
- ・地域住民の身近なつきあいや様々な人々の交流の場となること

2. 活動方針

- ・森の持ち主の意向や要望を反映すること
- ・森により私たちのみならず、地域住民が憩いと安らぎを得られること
- ・用具の保守点検を怠らず、森林作業技術を磨いて安全な作業に徹すること
- ・「しんやまの森」をはじめとし、近隣の森へのゴミ不法投棄の壊滅を計ること

Ⅲ【活動にあたり留意していること】

1. 地域に根ざした活動をめざすこと

● 新山町会との連携

新山町会内での活動を開始するにあたり、町内会の役員の方と偶然知り合いとなる出会いに恵まれました。その方の紹介で町内会長の理解を得ることができ、町内役員会を通して町内会員の皆様に私たちの活動を理解して頂いたことから、当地で定期活動する団体だと認知してもらえました。その結果として、町内会集会所のトイレ使用も了承していただき、また、オープンフォレストの広報チラシを町内会掲示板に掲示して頂くことなどの協力を得ています。

南北道路沿いに掲示板を設置して当グループの活動をお知らせし、四季折々の森と周辺に生息する動植物の紹介とともに、季節を感じさせる折り紙が掲示板に彩りを添えています。

活動フィールド内のみならず近接道路際に投棄されたゴミもできるだけ収集することや、H26年(2014)2月の大雪の時には生活道路である北側隣接道路の除雪をすることで通行の安全性向上を図るなど、周辺環境の改善に微力ながら務めています。

● 八柱幼稚園児の野外活動を支援

H22年(2010)7月14日(水) 森の生物や植物の自然観察と探検を目的として、しんやまの森から徒歩5分ほどの距離にある八柱幼稚園の年長組約100名が森を訪れました。午前中約1時間を森の中で過ごし、園内では経験できない野外活動の時間となりました。以来、毎年早春から晩秋にかけて年少、年中、そして年長と3組の訪問を受け入れ、これまでに23回の訪問を受けました。(2018年9月末時点)

野外活動の場の提供は園児たちの貴重な経験となると考え、当グループの重要な活動の一つに位置づけて園児たちの野外活動を支援しています。

2. 活動の記録を残すこと

定例活動や臨時活動の詳細を記録することに加え、活動フィールドや周辺環境の変化を記録することでしんやまの森の変遷を記録し、松戸里やま応援団の一員としての活動の記録を継続しています。

3. 森の所有者に報告、連絡、相談をすること

H20年(2008)4月22日(火)の第1回定例活動日に実施したゴミ収集活動結果はみどりと花の課から所有者へ報告されました。その後は活動の都度発行している活動記録を所有者の皆様へ郵送し、森の状況や活動内容を報告することで所有者が森と活動の最新情報を常に把握できるようにしています。また、オープンフォレストの開催に当たっては事前に活動内容の連絡をすることや、公開前に実施している森の放射能測定結果も報告してきました。さらに、森の現況変更となる高枯木の伐採や保管倉庫の設置に当たっては所有者から事前承認を得るなど、森の環境の変化をきたす案件は必ず報告し事前承認を得ています。

4. 安全な活動に配慮すること

安全な作業を最優先としています。装備を整え、活用する事を心がけています。

- ・ヘルメット、手袋、作業に適した衣服や靴は必ず着用すること
- ・チェーンソーによる伐採や刈り払い機の使用にはゴーグル、フェイスガード、チャップス、レガーズの着用や、梯子を利用した作業時の安全ベルトの着用
- ・作業前の指さし安全確認「無事故で行こう、ヨシ！」を励行
- ・厳寒期には作業前の準備運動の実行
- ・ステップアップ講座（技術編）のチェーンソーや刈り払い機講習会への参加

5. 松戸里やま応援団の一員としての活動に参画すること

毎年4月の「緑と花のフェスティバル」や5月の「オープンフォレスト in 松戸」への参画を始めとし、主として緑や環境に関係のある団体からの「しんやまの森」訪問や大学生の研究や体験学習のための現場実習、あるいはボランティア活動実習の場としての機会を提供しています。

6. 環境保全・再生と不法投棄ゴミ壊滅に取り組むこと

● 環境保全と再生に向けて

- ・ビオネストを設置してフィールド内で生じた枯れ枝葉は土に戻しています
- ・環境を悪化させる恐れのある植物を除去し、移植や植栽による環境の改善を図っています。

● 不法投棄ゴミの壊滅に向けて

- ・周辺道路沿いのゴミ収集の励行と不法投棄防止対策：不法投棄禁止表示杭の設置、境界ロープの位置修正、更に、フィールド内のジャノヒゲ等を常時投棄される空き地に移植して投棄しづらい環境としています